

平成27年度 第1回桐生市環境先進都市将来構想推進協議会 議事録

1. 日時

平成27年6月2日（火） 18：37～20：18

2. 場所

桐生市役所 6階 605会議室

3. 出席者

（1）委員（14人）

会 長：宝田 恭之〔群馬大学大学院理工学府 教授〕
副 会 長：近藤 圭子〔きりゅう市民活動推進ネットワーク 代表〕
委 員：西菌 大実〔群馬大学教育学部 教授〕
天谷 賢児〔群馬大学大学院理工学府 教授〕
根津紀久雄〔特定非営利活動法人北関東産官学研究会 会長〕
初山 和久〔桐生商工会議所 副会頭〕
大澤 豊〔桐生商店連盟協同組合 理事長〕
田中 忠雄〔新田みどり農業協同組合 常務理事〕
栗原 和人〔桐生広域森林組合 総括課長〕
今泉 芳雄〔桐生市家畜自衛防疫協議会 会長〕
佐羽 宏之〔2015年の公共交通をつくる会 会長〕
坂本久美子〔桐生市女性人材リスト（農業委員・花き栽培）〕
中野 久美〔桐生市女性人材リスト（建築設計）〕
川島 悦雄〔桐生瓦斯株式会社 総務部参事〕

（2）事務局（4人）

鳥井総合政策部長
和佐田企画課長
金子環境都市推進係長
松島主事

4. 議題

- （1）桐生市環境先進都市将来構想実施計画について
- （2）桐生市環境先進都市将来構想推進協議会の役割等について
- （3）その他

5. 議事要旨等

(1) 会長及び副会長の選出

□会長の選出については、根津委員より宝田委員が推薦され、委員の賛同を得るとともに、副会長については、宝田会長が近藤委員を指名した。

(2) 桐生市環境先進都市将来構想推進協議会の役割等について

□協議会の役割等を把握した上で実施計画の説明を受けた方が委員も理解しやすいという会長からの提案があり、議題(2)を先に説明し、協議会の開催時期等について了承される。

(3) 桐生市環境先進都市将来構想実施計画について

□実施計画について、報告事項として説明

(4) その他

□将来構想を推進するためのアイデア出しについてフリートーク形式で実施

(5) 次回日程及び委員謝金についてのお知らせ

□第2回協議会の日程についてお知らせ：平成27年10月上旬予定

□委員謝金について、今年度計2回の協議会開催後、出席回数に応じた謝金を支払う旨のお知らせ

□今後、開催通知などはE-mailやFAXなどで行うことがある旨のお知らせ

6. 委員意見（質疑応答）

〔議題1〕 桐生市環境先進都市将来構想実施計画について

【委員】

実施計画に内容を追加することは可能か。地産地消の部分で、米の価格が非常に安く、我々が売るのは現在60kgで7,000円ぐらいとなっている。直接学校給食に地元の米を使っていたきたい。

【事務局】

このことについては、実施計画P.4に学校給食の食材に桐生産農産物を積極的に利用という取組も掲げている。桐生でもおいしい米ができるということや遠くからもってくる環境負荷がかかることから教育にもなる。共同調理場も食材の調達には色々な規定があるためすぐに対応可能かはわからないが、働きかけを行い検討していきたい。

〔議題2〕 桐生市環境先進都市将来構想推進協議会の役割等について

特に意見なし

〔議題3〕 その他（将来構想を推進するためのアイデア出しについてフリートーク形式で実施）

【委員】

この計画は人口減少問題など桐生の将来に向け環境先進都市として取り組むということで、細かくまとめられていて素晴らしいと思うが、30年計画は少し長すぎないか。桐生の人口推計で2040年には7万となっており、消滅可能性都市としても出ている。また、少し見えづらいところもあり、世界の先進事例を見て桐生というまちを考えたとき、例えば昔は街なかに水車が回っていたという歴史もあるため、街なかに水車を回して水力発電をすることにより、観光と環境先進都市とが一体化してくるのではないか。今急速に人口が減少している中で、我々が今すぐ取り組んで実際に形になって見えてこないといけないのではないかと感じる。

【事務局】

これまで環境先進都市に関わる事業として、群馬大学との協働事業などを通して環境への取組が大切であるということで、環境への取組を進めることにより今抱えている地域課題の解決にも繋がるものと考えている。30年というのは、着実に一步一步できるものからという考えや将来の夢というようなある程度具現化できるものも盛り込んでいる。少し近未来的なことがあるかもしれないが、将来の目標を掲げ、この3年、5年、10年このようなことに取り組んでいくということをつかりやすくまとめた方がよいということでまとめさせていただいた。本編では、30年のうち10年までの間は何をするのかという10年間のロードマップを示し、加えて3年間の実施計画もさらに細かく示している。また、実効性を担保するため、皆さんより様々な意見をいただいたり評価をいただくというシステムをつくらせていただいた。構想ということであくまでも方向性を示したものの、理想を掲げた

ものとなっている。中身については5年スパンで見直しを図っていききたい。本構想は毎年取り組んでいく上での指針として考えていただければと考えている。

今地方創生で人口ビジョンを作ることとなっているが、2060年までの人口推計が求められており、将来を見据え、その推計数値にならないように、あるいは推計数値に対応した目標を設定し、それを踏まえ5年間の戦略を立てていくというような国の考え方と本構想については同類であると考えていただき、これを指針として3年、5年、10年と環境先進都市の実現に向けて市が取り組んでいくということで考えていただきたい。

【委員】

前に宝田先生の話で桐生が一番進んでいるという話があったが、「環境先進都市」といった場合に、先進地を見て参考にするという方法が一番早いのではないか。

【委員】

「環境先進都市」という以上、他の地域よりも先進しているところはどこかということがあり、その点では少し弱く、まだやれることしか書いていない気がする。外部資金をとって他の地域でやっていないことをアピールするなどこれを盛り込み、率先して取り組むことにより他の自治体をおいていくぐらいのものが見える計画となるとよい。桐生には人も資源も力もあると思うので、先進というものが見えるようになるとよい。

【事務局】

先進的なことというと先駆的な技術の導入ということがあり、そういう部分もないと先進的といえないこともあるが、違う見方としては、桐生にはまちのすぐ近くにバイオマス資源がたくさんあるものの全く上手に活用できていないのが現状であり、同じ条件の中で上手く活用している自治体はまだ稀であると思う。そのような中、地域特性を生かし、最新の技術を取り入れるということではないが、桐生はバイオマスをきちんと使うようなまちとしてそのような社会システムを作ることが環境先進都市という考え方もある。

できる限り多くの市民の方に環境に対して興味を持っていただくなり、危機感をもっていただくなりで環境にやさしいまちへ思考回路を向けていただき、コンセンサスが得られれば近未来的な技術の導入に対してお金をかけることについても批判は少なくなるものと考えている。ロードマップを作る際に、最終的には財力があるところでないといけないようなことも少しずつでも導入していきたいとは考えているが、まずは環境への理解や環境先進都市に向けた考え方について市民の皆さんに理解していただくような形で事業を進めていかなければならない。そのような中、この3年、5年については意識を喚起していくような事業を進めていきたいと思うが、今年度はそれに対する予算が3億円でそのうち市単独の予算も1億円しか出せていないことから、今後事業費を拡大するためには、外部資金を獲得していかなければならないと考えている。

【委員】

我々商売人からみるとバイオマスにしるこれから色々やろうとしていることについてはコストアップで税金を使わない限りできない。環境先進都市として見える形でやらないといけないと思う。例えば水車の歴史もあるので、桐生川の水を使い、採算には乗らないかもしれないが何台か水車を並べて小水力発電を行い、桐生は水が豊富でその水で電気を作っているという象徴的なものを見せながら、太陽光やバイオマスに取り組むというのはいいが、最初からコストが高いものに取り組むというのは事業者として中々使えない。そのため象徴的なものをつくり環境先進都市をつくっていく方が早いと思う。

【委員】

進捗状況の把握についてはどのようにするのか。予算がついているところは買ったか作ったかなどで把握できると思うが、予算0でマンパワーのところについて、例えば近隣への移動は徒歩や自転車を利用という取組について、これは職員が行うというイメージなのか、これをもっと広めるということで啓発を図るということか、市民が市民活動でそのようなことをやっていく必要があるのかということがある。

【事務局】

次回10月の協議会では、一定程度の進捗状況の説明をできるかもしれないが、考え方としては、年度が1年過ぎた形で進捗・結果を見ていただいた上で評価をいただくことになる。中間の進捗状況については、説明できる範囲内で個別具体的な動きがあるもののみとなる。

進捗状況として非常にはかりにくい部分については、行政の職員が率先して取り組むことはもちろんだが、大きな成果をもたらすには、一般市民の方の考えをシフトしていただくため、市は啓発のみではなく、市民団体の方と一緒にアピールして広め、市民にもそういう点に気づきをもっていただきたい。啓発活動を市民団体の方と一緒にを行い、一定程度の成果が出た段階で評価ということもできると考えている。そのため、着手はしているが半年や1年で評価ができるような成果ができるかどうかについて、現時点では考えていない。実際には、行動計画に基づいて着実に実施していけるかどうかについて評価をいただくことになると考えている。

【委員】

先ほどの水車をつけることなどについて、国などは壁をつくっていることがある。市が行政としてそのような水利用の制限の問題などの壁を打破していこうとした際に、おそらく市民も同じ意見を持っていないとできないと思う。具体的な計画について市民へ火種をまくために討論の場などを設けないと中々成果も上がらないと考えるため、その点が危惧される。

【事務局】

水利権の話かと思うが、その話一つとっても上級官庁とやりとりをするだけで中々進まないというのが現状であり、市民の方が水車のあるまちとして甦らせたという市民運動で高まっているような事業について規制緩和を要望する方が動いてもらいやすいと思う。市民に引っ張られるような形で行政が動くような形が理想的だと考えているが、水路のあるまちや水車の復活について、道路が狭くなるなど生活者視点で非常に反対される方がいるということも事実となっている。重伝建地区への水路の復活について、そこに住んでいない方から多く声が上がっているが、住んでいる方はこれ以上生活の利便が損なわれるのは勘弁してくれというような実態も踏まえる必要がある。そのことについては、どこかで折り合いをつけ、環境先進都市として相応しいような町並みづくりを目指していかなければならないと考えている。

【委員】

課題がクロスしていることも多くあり、関係課もクロスして取り組んでいかないと縦割りで全然違うことをやっているということになってしまうので、市の仕組みとしても相当見直していかないと実現しにくいと思うので、各課の中で整合をとって進めていっていただきたい。

【委員】

水車を造るのであれば伝建群の本町通りが良いと思う。トランジットモールも実施して水車も発電し、太陽光やバイオマスもやってもいいが、桐生らしい環境先進都市を進めていき、観光にも結び付けてみてはどうか。

【事務局】

豊富な水源を持つ地域特性を生かした小水力については、エネルギーを取り出せる適地があれば導入するという構想に示しており、街なかへの導入についても多くの住民のコンセンサスが得られ、機運の盛り上がりがあればやっていきたい。一朝一夕に理解していただける状況には無いこともあるが、環境への取組を進めていく中で、生活している方の考え方も少しずつ変わってきていただけののではないかという期待もある。将来的にそのような話が出てくれば例えば5年の見直しの際に取り入れるということも可能であると考えている。この協議会で出た意見もコンセンサスを得てここに追加していくなど、適切に見直しを図っていきたいと考えている。

【委員】

市が取り組むことについて書かれているのみで、市民を巻き込んだキーワードがあまり中心におかれていない気がする。市民をたくさん巻き込んで何か大々的な低炭素活動を市が中心となってプロジェクト化するなど、市民を巻き込んでやる仕組みを導入してみてはどうか。そのような仕組みを導入しないと市民に上手く普及せず、市全体で取り組むということが見えてこないと思う。

【委員】

実際に市民が提案して市と一緒にやるという方がやりやすいと思う。市民から発信して簡単なものから取り組もうという意識を持つきっかけづくりをできればと思う。市からの待つのではなく、市民がやりたいということを市民団体が計画して発信してもいいのかなと思う。

【事務局】

行政組織の中で、それぞれの担当部局では、行政目的をきちんと果たすための予算の使い方などを考えてしまうが、構想に示しているものを具現化するためには、市民の皆さんに意識を持って動いていただかないと大きな成果が出ない。市民の視点で取組の具現化をするための提案や、市は市民の活動が一番重要であると考えていても行政主導でどのように引っ張っていったらよいか疎い部分もあるため、10月の会議の際に御教示いただきたい。

【委員】

商工会議所の工業部会で新桐生駅の改良計画について説明をきいたが、エレベーターの設置場所について、ホームの端の方に設置するという絵が描かれていた。同じ予算を使うのであれば、従来の常識として考えるのではなく、観点を換え、最終的な目標が達成しやすいようなレイアウトを考えていただきたい。他の予算でも何かつくるときにはそのようなことを考慮していただきたい。

【事務局】

りょうもう号の車イス席のドアの近くにエレベーターを設置してはどうかということについて東武鉄道にも相談したが、現在のホームの形状や地下道の関係などにより、どうしてもそのドアの近くには設置できないということだった。私もそのようなことを全く気づかずにホームの端にということではなく、どのようにすれば近くに設置できるかについて、これから話を詰めていきたいと考えている。

【委員】

安全安心なまちづくりということで、市内の防犯カメラの設置状況はどのようになっているのか。商店連盟では商店街に50台をつけ、警察からかなりの効果が出ていると聞いている。そのような中、市全体の設置状況はどうか。

【事務局】

担当は総務部の安全安心課であるが、住宅街に設置するというような具体的な動きは現時点ではしていない。街なかでは商店街で犯罪防止や犯罪抑止力を高めるために設置していただいているが、住宅街への設置となると監視されているような感覚が生まれ、生活のプライバシーが侵害されてしまうため設置に対して反対という意見をもつ市民の方もいる。新しい安全なくらしのための施策の研究を深め、より一層安全なまちになるように取り組んでいきたい。

【会 長】

本日は皆さんから色々良い意見が出て大変参考になったと思う。昨年度、この構想を作る際に、構想を作っただけで終わらないように推進協議会をつくることをお願いした。30年先の構想ということから始まっているが、日本の脱温暖化の目標なども2050年からきているので、そういうところとの整合性をつけることである程度は仕方ないことであると考えている。ただそれを一つの目標に掲げるのみでは今何もしないことになってしまうので、今回この3年の実施計画を協議会で見直すことについては大変重要であると考えている。年に2回その機会があるということだが、これを行政に任せてしまうのではなく、産官学民が計画段階から全てやっていくのがこれからの社会であると思う。この推進協議会が計画の中から、例えば特徴あるところに集中しようと、そのためにはこういう組織を作ってこういう議論をしたらどうかというようなことまで提案していく必要がある。行政のみに任せていては色々な面でそう簡単にはできず、また、縦割り行政を崩すというのも中からはできないと思うので変えていく必要があり、そこが正に先進都市ということになると思う。

環境先進都市について、世界にまだ目標となるところはないと考えている。自分の理解では、地球環境、地域環境を保全し良くしながら楽しめる都市ということだが、それができている都市はない。

桐生には魅力がないわけではなく、それを発掘して売りにしながら今までのものづくりも継承し、将来の目標を掲げながらも現実的なところも担保していくという非常に難しいことだが、この協議会はそういうことをやる場所であると思う。この計画はただ単に出来上がっただけであり、この協議会が機能しないと絵に描いた餅になってしまう可能性が非常に高く、それぐらいこの協議会は重要であると考えている。市に任せておくのではなく、協議会である程度案を出すこともやっていきたい。

10月にはこういうものであったらアピールできるということなど、経済的な問題なども含めた形で本当にできないかどうかというプロジェクト案をいただければと思う。そしてそのためのF Sの僅かな予算があれば結構だと思うので、来年度の予算化に向けた提案を桐生の知恵を結集したこの協議会からしていきたいと考えている。